



【特集】 伝わる言葉、つながる気持ち

2020年度から小学校の学習指導要領が大きく変わり、小学生の英語の授業時数が増えます。市では、新学習指導要領の完全実施に先立ち、本年度2学期からALT(外国語指導助手)を増員。今号は、英語教育を現場で支えるALTと指導内容を紹介します。



■ 外国語活動、外国語科の年間授業時数

	2011～2017年度	2018～2019年度	2020年度～
小学5、6年	外国語活動…年35時間	外国語活動…年50時間以上 ※外国語科の内容も一部含む	外国語科(英語)…年70時間
小学3、4年		外国語活動…年15時間以上	外国語活動…年35時間

外国語活動…歌やゲームなどを通して、楽しみながら聞く、話す力を育成します。
外国語科…聞く、話すに加え、教材を使いながら読み書きを学びます。現在、中学生が学んでいる英語の内容も一部学習します。

各小学校を訪問できなかったALTが、市内の全22小学校には週1回、幼稚園や保育園、こども園には月1回程度訪問できるようにします。訪問回数が増えることにより、子どもたちはALTとコミュニケーションを取る機会が増え、さらに英語に親しめるようになります。

市では、新しい学習指導要領を踏まえ、10人で活動していたALTを、本年度2学期から13人に増員。今までは、2週間に1回のペースでした。

ALTを増員して英語をより身近なものに

20年度から始まる小学校の新しい学習指導要領では、全国の小学3・4年で外国語活動の授業時数が増加。5・6年では、従来の「聞く・話す」に、「読む・書く」を加えた「外国語科」が正式な教科になり、アルファベットや約600語の単語を学びます。

学習指導要領では、小・中学校、高校ごとに、各教科の目標や大まかな教育内容を定義。各学校では、学習指導要領や年間の標準授業時数を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程を編成しています。2011年度からは、小学5・6年で週に1回、「外国語活動」を授業に取り入れ、18年度からは週に1～2回(3・4年は年15時間)以上、児童らが英語に触れる機会を設けています。

文部科学省は、全国のどの地域で教育を受けても、一定水準の教育が受けられるように、各学校で教育課程(カリキュラム)を編成する際の基準を「学習指導要領」として定めています。

小学生から英語の読み書きを学習